

足羽川河川空間利活用促進懇談会

(第3回 全体会議)

平成20年9月9日

1

- 説明内容 -

1. 親水空間の整備について
2. 木製堰の設置について

2

◆県の木製堰の提案趣旨

- 水辺へのアクセス向上については、親水階段を整備
- さらに利活用促進を図るための新たな工夫として、幅広い水面の創出を検討
- 設置条件を考慮し木製堰を提案

- イベント等と一体となった利用の拡大や持続可能な運営が見込めるかが課題

3

1. 親水空間の整備について

4

◇親水空間の整備（1）

河川空間の利活用促進のための新たな工夫

- 水面に近づくための施設
- 水面創出による利用拡大

- 棧橋、飛び石、舟橋 etc
- 木製堰



5

◇親水空間の整備（2）

利活用促進のための新たな工夫（案）

棧橋
棧橋を設置することにより河川に近づく親しむ方法



- 水面に近い位置での利用が可能

飛び石
河床に石を配置して河川に近づく親しむ方法



- 対岸に渡る
- 遊びとしての利用

6

◇親水空間の整備（3）

利活用促進のための新たな工夫（案）

舟橋

橋を設置して河川に近づき親しむ方法



- ・対岸に渡る
- ・遊びとしての利用

木製堰

堰により水位を上昇させて水面を創出する方法



- ・ボートやカヌーによる水面利用
- ・屋形船
- ・景観の向上

7

◇親水空間の整備（4）

各手法のメリット&デメリット

	メリット	デメリット
橋 飛び石 舟橋	<ul style="list-style-type: none"> ・橋へあがらず左右岸の連絡が可能 ・多少の水位変動には対応が可能 ・生物環境に与える影響は少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置位置が固定されているため、利用が限定される ・保管場所が必要（橋、舟橋） ・利用者に安全な構造とすることが必要 ・景観面での効果は期待できない
木製堰	<ul style="list-style-type: none"> ・船（カヌー、ボート、屋形船等）を使った新たな利用が可能 ・設置期間中、景観面での効果も期待できる（広い水面、落水、音） 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置に熟練工と日数が必要 ・保管場所が必要 ・水面利用に耐える安全な構造が必要 ・上下流分断による生物環境への影響

8

2. 木製堰の設置について （補足説明）

9

◇養老川における木製堰イベントの現状



- ① イベントとして実施（4年に1回程度）
→取水は下流の新堰で行う
- ② 最近では資金（寄付金や補助金）不足により、実施が困難な状態が続いている
- ③ 堰設置時には、下流の堰で水位調整が可能
- ④ 水量も少なく、流れがほとんどない状況での施工が可能

10

◇木製堰の運用の際の留意点（1）



①前提条件

- ・出水期間（8/18～10/15）は設置しない
- ・増水時には撤去できる構造
又は、治水上支障のない構造
- ・建設費、維持管理費を少なく
- ・水深は幸橋付近で50cm確保

11

◇木製堰の運用の際の留意点（2）

② 養老川と足羽川の水量の違い

足羽川



（足羽川）

年間降水量 約 2,200mm
年間降雨日数 約 170日
年間平均流量 約 20 m³/s

養老川



（養老川）

年間降水量 約 1,600mm
年間降雨日数 約 120日
年間平均流量 約 6 m³/s

足羽川の方が木製堰を設置する際の気象条件が厳しいことが想定される

12

◇木製堰の運用の際の留意点 (3)



- ③ 人力での作業のため熟練が必要
- ④ 増水時には、パトロールや撤去作業員の待機が必要



◇木製堰設置による環境への影響

